

弥

生時代、「クニ」という広域のまとまりが出来上がっていく中、各地でさまざまな形の墳墓が出現した。

一七〇〇年前〜二三〇〇年前頃につくられた墳墓を「古墳」と呼び、その時代を「古墳時代」という。

市内には全長一〇〇メートル級の大きな前方後円墳がある。津屋崎の国道沿いの田園や豊かな自然の中に分布している古墳群は、国の史跡であり、世界遺産の暫定リストに記載されている。

古墳に詳しい市古墳公園建設係の井浦主任に話を聞いた。

福津の古墳の特徴



津屋崎古墳群（新原・奴山の前方後円墳）

世界遺産登録を目指して

東アジアの交流を物語る古墳

市内にはおよそ500基の古墳があります。福津の古墳が盛んにつくられ始めたのは古墳時代の中期、西暦400年代頃からです。

福津市は玄界灘を挟み、対岸は朝鮮半島や中国大陸に面しています。地理的に東アジアへの窓口といえる重要な位置にあります。

福津の古墳をつくった人々は、天然の港を持ち、伝統的に培った航海技術で船舶を操り、時代の要請に応え東アジア世界に関わっていったと考えられます。発掘調査では、大きな古墳だけでなく、小さな古墳から大変貴重な舶来品が発見されています。

北部九州を代表する「津屋崎古墳群」の魅力

勝浦から手光まで南北8キロメートル、東西2キロメートルの範囲に、県内屈指の規模を誇る全長100メートル級の前方後円墳など大きな古墳が集中

しています。これらの重要な古墳60基を「津屋崎古墳群」と総称しています。北部九州における代表的な古墳群として、平成17年3月、国の史跡となりました。

古墳群ではこれまで国道495号の造成などの際に一部を発掘調査し、その重要性を確認しています。しかし、まだ大部分は未調査で、つくられた年代や石室構造、副葬品など、未解明な部分が多いです。

一方、発掘調査は破壊行為でもあるため、慎重に行わなくてはなりません。今後、修復や史跡整備を進める中で、必要な部分について発掘調査を行います。



「津屋崎古墳群は、未調査と未解明なことが多い分魅力がありますね」と語る市古墳公園建設係 井浦一主任



奴山・生家ゾーン整備中のイメージ

古代から未来へ、貴重な文化遺産である津屋崎古墳群を保全し、福津市の象徴として市民に親しまれる史跡として整備を進めるために、『整備基本計画』を策定しました。

当面の整備は、古墳への見通しや眺望をよくするために、樹林の伐採を進めます。国道沿いに点在する特色ある古墳石室などは早期公開を目指します。

次の世代に
伝えるために



サブ拠点整備イメージ

今後の発掘調査や整備工事の進捗状況は、一般公開して、常に新しい情報を発信していきます。

具体的な整備内容は、古墳ごとに検討していくことになります。

例えば、市民参加で埴輪をつくり古墳に立て並べる整備手法などが近年注目を集めています。

津屋崎古墳群では、その存在と価値を広く知っていただくとともに、歴史遺産が身近に感じられるような史跡に整備していきます。

海外へ旅行する際に世界遺産を巡る旅というキャッチコピーに何かしら口マンを感じて行かれる人も多いと思います。

それでは、世界遺産とは何でしょうか？世界的に重要な自然・文化遺産を保護するため、1972年ユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」通称世界遺産条約に基づいて、世界遺産委員会が世界遺産リストに登録したものです。

福津市に所在する津屋崎古墳群は宗像市の沖ノ島と宗像大社・東郷高塚古墳・桜京古墳と合わせて世界遺産候補「宗像・沖ノ島と関連遺産群（以下遺産群とする）」として世界遺産暫定リストに記載されています。暫定リストとは、世界遺産条約締結国が、世界遺産に登録するための推薦候補地を一覧表にしたものです。世界遺産に登録されるためには、この暫定リストに記載されていることが絶対条件となります。日本の暫定リスト掲載遺産は12件あり、今後世界遺産登録の条件が整った遺産から、国がユネスコに推薦書を提出します。

市では福岡県と宗像市と共同で世界遺産推進会議を立ち上げ、県民、経

世界遺産登録に向けて

市世界遺産登録推進係

済団体、文化、教育団体、行政が一緒に世界遺産登録に向けた活動を進めています。

世界遺産推進会議では遺産群を世界遺産へ登録するための条件整備のために学識者からなる専門家会議を立ち上げました。この会議では遺産群が世界的にみて価値があるかということとを国内のみならず海外の遺産と比較研究し、世界遺産の登録基準の適用についての検討を行っています。

市では、この貴重な遺産を一人でも多くの人に知ってもらうために積極的な活動を行なっています。各自治会や小学校へ、市職員が出向いて講座をしたり、津屋崎古墳群の現地説明会を開いたり、いろいろなイベントでアピールしています。世界遺産登録に向けて、皆さんの応援をよろしくお願いいたします。



学術的な国際会議の様子

古墳の紹介

津屋崎古墳群

津屋崎古墳群のいくつかを紹介します。

津屋崎古墳群をつくった人々については、古墳からそのことを示す文字資料などの物証は出土していません。しかし『日本書紀』や『古事記』といった古代の歴史書に、三女神を祭る「筑紫の胸形君」という有力豪族が登場します。地理的状況や古墳群の規模を考え合わせると、津屋崎古墳群は沖ノ島祭祀に関わったと伝わる胸形君とその一族の墳墓群である可能性が高いと考えられます。なお、「ムナカタ」という文字は、古代において「胸形」「胸肩」「宗形」「宗像」など、史料によってさまざまに使われています。

勝浦峯ノ畑古墳



墳丘長100メートルの前方後円墳で、埋葬施設の横穴式石室の中に石柱が2本立つ国内唯一の大変珍しい構造です。石室内部は朱色に塗られています。この古墳に立つと眺望が素晴らしいことに驚きます。玄界灘や南に続く古墳群の立地などが見事に一望できます。

須多田古墳群

前方後円墳4基と円墳1基が点在しています。なかでも須多田天降神社古墳は、周囲を濠と堤が巡る墳丘長80メートルの堂々たる前方後円墳です。須恵器という焼き物や人物埴輪の破片が出土しています。



▲須多田天降神社古墳出土の人物埴輪推定復元図（網かけ部分が出土）

埴輪からは当時の男女の服装や髪形、建物の構造、道具、動物といった古代人の生活の様子を具体的に知ることができ、その造形を見ただけでも大変面白い古代の芸術品です。

津屋崎古墳群では人物埴輪のほか家形埴輪らしき破片が出土しています。今後もっと多種多様な埴輪の発見が期待されます。

新原・奴山古墳群

東西800メートルほどの台地上に前方後円墳5基、円墳35基、方墳1基の計41基が集中し迫力があります。道路造成などの発掘調査で、当時の先端技術である鍛冶の工



▲新原・奴山5号墳出土の珍しい「皮袋形土器」（写真中央）
田畑のなかに累々と墳丘が続く景観も印象的です。

宮地嶽古墳



▲宮地嶽古墳の石室

宮地嶽古墳は宮地嶽神社の奥の宮、不動神社として石室内に不動尊が祀られています。古墳は古墳時代終末期、西暦600年代につくられた、直径35メートル前後の円墳と推定されています。ここから4キロメートルの距離にある恋の浦海岸から運ばれた巨石を用いた長大な横穴式石室は、全国第2位の長さを誇ります。出土したガラス製品や唐草文で装飾された馬具や冠など、豪華で国際色豊かな副葬品は国宝に指定され、規模、副葬品ともに大変すばらしい古墳です。